

Title	アツシユレー氏註 ミル氏 経済原論
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.3, No.3 (1910. 3) ,p.364(142)- 365(143)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100315-0142">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100315-0142</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

す可きも、事實を基礎とせる議論は容易に之を動かす可からず。我輩は保護關稅論に熱中し、心酔して殆ど他を顧みざる我國一部の人士に向て、獨逸保護政策の効果を論じ、其利益を喋々する以前に、先づ本書を一讀することを勸告するものなり。(堀江歸一)

## アツシユレー氏註ミル氏 經濟原論

Principles of Political Economy. By John

Stuart Mill. Edited by W. J. Ashley. pp. XX-

XI 1013. Longmans & Co. 1909. 5s.

ミル氏經濟原論は出版後既に六十餘年を経過したれども、尙ほ經濟學研究者の一讀を要する書籍の一として、世間に重要視せらる。唯從來行はれたる版本中ライブラー、エヂシヨンは高價にして一般讀者に適せず、ポピユラー、エヂシヨンは字

體小にして、繙讀に便ならざるの缺點を免かれざるのみならず、最近二三十年間に於ける經濟學說の發達はミル氏の所説に幾多修正を加ふるの箇所を生じたり。先年米國のラフリン教授が刊行したるミル氏經濟原論の如き如上の不便を除き、又如上の必要に應ずる爲めに出でたるものなりしが、何故か世間に行はるゝに至らず、今日に於て殆ど多數の研究者に忘却せられたるが如し。今、アツシユレー氏註ミル氏經濟原論を見るに、氏は決してラフリン氏の如くミル氏の原文に對して大膽なる加除訂正を加へず、前後幾多の版本に於てミル氏の説明の異なる點を附註し、千八百四十八年初版發行後若干年間に於てミル氏の學說に如何なる變化を現はしたるやを明にするに勉めたり。而してアツシユレー氏自身緒論二十六頁を起草し、専らミル氏自叙傳に基き、ミルとベンダム、デエームスミル、コムト等思想上の先輩との關係を敘述し、ミル氏の所説に變動を來さしめたる所以を知るに便せんとしたり。是れ亦有用の文字た

るを失はずと雖も、本書中最もアツシユレー氏の功勞大なりと認む可きは、卷末に付したる二十四頁に互る參考書解題にして、經濟原論研究上の重要項目三十九を擧げ、各項目に就て、ミル氏經濟原論の關係部分と併讀す可き書目並に雜誌論文を、指示、間々書籍論文の性質をも説明したり。アツシユレー氏がハーヴァード大學に於て經濟史の講座を擔任し、又英國經濟史に就て有名なる著述あるは、人の知る所なるが、氏は前年トロント大學に於て、近年バーミンガム大學に於て經濟史以外、幾多經濟學に關する講義を爲し、各方面に普遍せる知識を有する人なるを以て、其經濟原論參考書目の選擇解題を爲すが如き事業には、最も適したりとす可く、殊に社會主義、賃銀基金の兩項に於ては、名を參考書解題に藉りて、堂々たる議論を試み、人口の異動、十九世紀に於ける物價の兩項に於ては、有益なる統計を添付したり。參考書中千九百九年出版の書籍、政府出版物、雜誌論文を見るに於ては、氏の勞大なりとす可し。要す

るにアツシユレー氏の云へる如く「此書籍は今後永く繙讀せらる可く、又其價值ありとす。其十九世紀に於ける知識上の歴史中興味ある方面を代表するは論なしと雖も、其特色は歴史以上の點に在り。或る點に於ては、今日に於ても英書中之に勝るものを見ず、又他の點に於ては、本書を出發點として、更に研究を進むるを便とすは何人も否認せざる可し。評者は未だミル氏の原論に接せざる人に向て本書を推薦すると同時に、ミル氏原論を讀むと否とに拘はらず、經濟學研究者が本書卷末參考書解題を一瞥して、アツシユレー氏の苦心を空しふせざらんことを望む。(堀江歸一)